

高松の風景の中の屋島

屋島は、その独特の平坦な地形から、古くからランドマークとして親しまれてきた。高松市が誕生する遥か前から、屋島は神聖な場所であり、防衛の要所でもあった。現在、瀬戸内海の眺望を求めて世界中から観光客が訪れているが、その中でもこの台地は、その目を惹く見た目から高松の風景の中で特別な存在となっている。多くの地元の人々にとっては故郷の証であり、航海安全の象徴でもある。

屋島は高松市内のほぼどこからでも見える。昼間は、高松市内の高層ビルの後ろにある、空に浮かぶ大きな緑の公園のようだ。夜になると、その遠くに見える姿が街に迫り、海風を遮る。雨の日には急に霧が発生し、お遍路さんやハイカーにとっては大変なことになるが、遠くから見ると屋島はとても美しい。秋には山の木々が燃えるような色に染まり、冬にはたまに雪が積もることもある。

高原の形は、見る角度によって変わる。北や南から見ると、頂上の平らな部分が見えなくなり、普通の円錐形の山のように見える。屋島の独特な台地のシルエットを眺めるのに最も適した場所は海である。高松から瀬戸内海の島々や神戸までへ向かうフェリーに乗れば、屋島の優雅なフォルムを堪能することができる。